

日本合成アジアパシフィック



藤崎 明德 MD

日本合成化学工業は今年4月にシンガポール現地法人の日本合成アジアパシフィック(藤崎明德MD)を設立。今年半ばをめどに本格的な営業活動を開始する。同社の設立にともない、タイ現地法人をシンガポール拠点に集約。経営資源をシンガポールに集中し域内市場の開拓を進めていく。

日本合成アジアパシフィックでは、ASEAN(東南アジア諸国連合)およびインドにおけるエチレン・ピニルアルコール共重合樹脂(EVOH)「ソアノール」およびポリピニルアルコール樹脂(PVOH)「ゴージェール」の拡販を事業の柱とするが、当面はソアノールの営業に注力する。同社では人員の拡充を進めており、最終的には営業、技術サポート、総務などで計10人程度まで人員を拡大し、A

食品包材にEVOH拡販

ASEAN全域やインドでの事業展開を力化する体制を構築する。

注力するASEAN域内では、食品メーカーおよび包装材のコンパクターの投資が拡大。タイやベトナムといった新興市場ではEVOHの需要は2ヶ月前後の伸び率に達するという。その一方で、1人当たりのEVOH消費量は先進市場の数分の1にとどまっている。こうした潜在需要を掘り起こすため、来年内をめどにシンガポールに技術ラボを開設する。直接的な需要家であるコンパクターはもとより、域内の食品メーカーといった最終ユーザーまで踏み込んだ技術営業を視野に入れるもので、食品包材用途における「ソアノール」の機能や利点などについて需要家の理解を深耕する狙い。また、食品包装材用途に加えて、プラスチック燃料タンクについても、技術サービスを軸としたマーケティング活動を展開する計画。

ASEANに加えて、インドについても注目しており、必要に応じてASEANとは異なる営業・技術サービスのアプローチで市場開拓を進める。